

令和元年度第3回若葉区支え合いのまち推進協議会議事要旨

1 日 時 令和元年12月17日（火）10時00分～12時00分

2 場 所 若葉保健福祉センター3階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 赤間委員、荒木委員、飯原委員、岩澤委員、江口委員、
尾出委員、大嶋委員、小川委員、菊次委員、小出委員、
酒井委員、清水委員、宝井委員、津田委員、角田委員、鶴岡委員、
縫部委員、林委員、藤田委員、布施委員、前田委員、真鍋委員、
山内委員、山口委員、山崎委員、山本委員 飯塚委員代理山下氏

(2) 事務局 富田保健福祉センター所長、萩原高齢障害支援課長補佐、鈴木社協区事務所
副所長、太田高齢障害支援課主査、小林地域福祉課主査、小椋地域福祉課主
任主事、三ツ目地域づくり支援室主事、木内高齢障害支援課主任保健師

4 議題

(1) 若葉区支え合いのまち推進計画重点取組み項目の進捗状況について

5 会議経緯

○委員長

民生委員児童委員の代表の交代があったため、若葉区民生委員児童委員協議会齋藤一男委員、若葉区主任児童委員宝井薫子委員が新しく委員になられた。齋藤委員は本日所用により欠席である。

(1) 若葉区支え合いのまち推進計画重点取組み項目の進捗状況について

○事務局

本日は、社会福祉協議会各地区部会における重点取組項目について、グループで討議をしていただきたい。重点取組項目でうまく実施されている取組とその理由、また思うように実施できていない項目・課題とその理由について、冒頭の10分程度で報告して頂き、その報告をもとに各グループで意見交換等をしていただきたい。

〈グループ討議〉

○結・みつわ台地区部会のグループの発表

順調に進んでいる重点取組内容として、年に一回「福祉の集い」を開催している。今年、「ユニバーサルデザインかるた」による「福祉標識」の勉強会と「防災知識の習得&身近な非常食づくり」をテーマに実施した。会場側面に7か所の支え合いの会の活動紹

介パネルを展示し、好評を得た。2月に「我が家（地域）の防災対策について」と題して、防災対策課の出前講座を計画している。

思うように進んでいない重点取り組み内容としては「人材発掘」である。意識の高さや行動力にたけた人材を見つけて勧誘するのは容易ではないが、今年は新しい役員が増え活性化の兆しが出てきた。

あんしんケアセンターと二人三脚で進めてきた地域ケア会議は、ある程度成果をあげ、地域の人たちがお互いに支え合っていくことの大切さの意識が根付いてきている。しかし活動拠点なしの現実は、大きな難問となっている。

○貝塚地区部会のグループ発表

町内会役員、民生委員が地区部会のメンバーとなっており、地区部会活動が町内会や民生委員活動とうまくリンクしている。スポーツ振興会主催のグラウンドゴルフや運動会、民生委員主催のいきいきサロンがあり、地区部会としては予算の8割を使って芋煮会を開催している。この活動をより良くするためには、町会のサロン等に他の町内会の人も参加できるようにし、規模大きくし、参加者の拡大を目指していけばいいのではという意見が出た。

課題としては、担い手不足、人手不足、自治会単位の活動のばらつきである。町内会の活動の活発化が地区部会活動の活性化につながる。人が集まれる場所がない自治会もあるが、個人の家開放等を検討していきたい。

また今までは、災害が起こりえないという思いが強く、防災対策が進んでいなかったが、意識が高まっている今、対策を行っていきたい。

○坂月地区部会のグループ発表

歩こう会、グラウンドゴルフ、ラジオ体操などは、決まったメンバーであるが参加者も多く盛況であり、順調に進んでいる取組みである。隣近所のつながりが強い地区であるため、地区でのイベントの参加者は多い。スポーツ振興会が主催しているもの、老人クラブが主催しているものなどがあるが、各団体が話し合う場をつくり、連携や調整をしていくことが必要ではないか、市が推進している地域運営委員会のようなものが開けるとよいのではないかという意見が出た。またこのようなイベントを開催したときに、自治会の回覧による広報となるため、自治会も人集めという意識を持ち、人が集まらなかったときの対応もを考えるといいのではという意見が出た。

人材発掘として、シニアリーダーなどにも声をかけているが、なかなか集まらない。

地域の防災マップを作成しているが、思うように進んでいない。今回の災害で危険な場所などが明らかになったので、住民が実際役に立つマップを作れると思うが、担当している人の負担が大きい。それに対しては、小学校や安全パトロールなど他の団体が作っているマップの情報を集めて作成したらいいのではないかという意見が出た。

○白井地区部会のグループ発表

福祉ネットワーク会議を年3回行っているが、年4回を目標にしている。会合ごとに、ピックアップした問題点をクリアにしている。この会議や活動をさらに良くするためには、個人の積極性が大事である。中核になる人の不足が問題であるが、各委員がレベルアップし、積極性を持つことが大事であるという意見が出た。

地域の施設であるいずみ苑を利用し、ふれあい食事会を開催予定である。来年4月からの開催に向けて準備を行っている。

課題としては、後継者不足である。福祉活動推進委員が7名から4名に減ってしまった。その対策として、「ちょこっとボランティア」の活動を拡大し、ボランティアカードを作り、ボランティア活動に参加しやすくすること、また地区部会活動の見える化が必要である。活動している人の輪を広げる中で、それぞれの得意分野見つけ、活動できるメンバーを見つけていくことが必要だという意見が出た。

○加曾利地区部会のグループ発表

福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動を実施した。目標を達成できた理由としては、病院や中学校、ヤクルトなどの民間企業、大学など協力してくれる関係者が多いためである。また今年度ことぶき大学校卒業生から、3名が新メンバーに入り、人材発掘という目標も達成することができた。またあんしんケアセンターと連携し地域ケア会議を開催し、議題なども最新のものを取り入れるなど工夫している。

今後もイベントを通じ、より多くの人たちと知りあい、イベントでアンケートをとるなどして、新たな人材発掘へとつなげ、より多くの協力関係者を増やしていきたい。

○若松地区部会のグループ発表

若松高校で「福祉の心をはぐくむ活動」という、子育て中の親子と生徒の交流を行っている。学校の理解もあり、参加者が増加している。家庭科の事業の一環として行っており、父親の参加も増えている。また参加者に社協や民生委員の活動を広報できる場所ともなっている。高校という場所で話すことに意義を感じている。今年度は取材を受け教科書にも掲載された。

素晴らしい活動であるため学校の担当が代わっても継続できるようにしていくことが必要であるという意見が出た。

思うように進んでいない重点取り組み内容は、子育てサロンやいきいきサロンである。子どもが少ない地区であることや、場所や駐車場の確保が難しいという理由がある。それに対して、住民にアンケートをとったり、自治会と地区部会が連携し組織を作り対応していくことが必要ではないか、定年となった民生委員の方にも声をかけ関わってもらいたいのではないかという意見が出た。

○御成台・千城台西北地区部会

子育てサロン、介護予防、健康づくり活動が順調に進んでいる。東南地区部会との協

力ができていることが理由にあげられる。

自治会との連携を図っていきたいと思っているが、なかなかうまく進んでいない。自治会は一年ごとに役員がかわってしまうため、新しいことをやりたがらないことが理由である。その課題に対して、地域運営委員会を立ち上げて、多団体と交流、情報交換の場を作ること、自治会役員に、次年度の課題を立てさせること、自治会や子ども会、老人クラブの会員から支え合いの会という組織を作ることなどの意見が出た。

○委員長

印象に残ったこととして、結・みつわ台の「福祉のつどい」や「福祉のこころをはぐくむ活動」「福祉ネットワークづくり」「災害対応」などである。

今まで千葉は災害が起こらないものと皆考えており、防災に対する意識がとても低かったが、意識が高まっている今、体制やシステム作り、要支援者への対応を検討していく必要がある。

人材育成などは、どこの地区部会も共通する課題である。ボランティア活動の見える化はとても重要で、地域の人にボランティア活動の必要性や意義を啓蒙していく必要がある。

○事務局

次回の第4回推進協議会は、令和2年3月4日を予定している。
以上をもって、第3回若葉区支え合いのまち推進協議会を終了する。

閉会